

田代よいとこーその33ー子安森と中津川の流れー

『あいかわの地名ー田代地区ー』（愛川町文化財報告書第18集 愛川町文化財調査会編 平成2年3月）25ページに「子安森跡」（こやすもりあと）という記事があります。このように書かれています。〈写真1〉

「残草624番地の水田のなかに岩石の露頭が見える。中津川の古い流れの縁で、この岩場のまわりは小さな森をなし、ひところはそこに子安明神が祀られていた。子安社は、現在ここにはなく、西原1507番地に移してあるが、その跡地として名が残っている。」

また、『愛川町の小祠・小堂』（愛川町文化財報告書第8集 愛川町文化財保護委員会編 昭和48年3月）によると、

「子安明神の社地は40平方メートルほどで、すぐ前は中津川の深淵であったといわれる。俚伝によれば、この子安の森は良弁僧正〈註1〉（東大寺の初代別当で大山寺の開創者・689～773）が相模国に巡錫のみぎり、ここに立って西方を望むと、山脈のなかに瑞祥〈註2〉がみとめられたので、そこを聖地として今大山不動院清滝寺〈註3〉の建立を思い立ったという所縁の地である。」



写真1

2つの調査報告ともずいぶん古いものです。今はどうなっているのか、伊従正司さんに案内していただき、見てきました。

現在ここは休耕田となっており、岩の一部だけが見えていました。土や草をどけていった結果、長さ約220cm、幅約140cm、高さ約50cmほどの岩が現れました〈写真2〉。たぶん、これはまだ”氷山の一角”で、この下にもっと大きな岩盤がありそうです。伊従さんのお話でも、かつて古い時代、この岩のあたりを中津川が流れていたとか。実際、平成7年に下水道工事をした折、このあたりの地下から砂の層が出てきたそうです。

移設した子安明神も伊従さんの案内で見었습니다〈写真3〉。小さな石の祠です。「大正五年三月 祭主 古座野良照」という文字が彫ってありました。水田にあった子安明神は、今からちょうど100前に、子安森から現在の場所に移されたということになります。『愛川町の小祠・小堂』によると、祠の中には「謹修 子安大神御霊 奉祀 大正十三年九月二十七日 村社社掌 甲賀金蔵謹誌」という神札が納められている。」と書いてありますが、先日の調査では見当たりませんでした。

今回の調査から改めて分かったことは、伝えを信じるなら8世紀の頃、子安森と天台山（てんでんやま）の間を旧中津川が流れていたということです。（次回に続く）



写真2



写真3

〈註1〉良弁僧正（ろうべんそうじょう）は鎌倉由井郷の人・染屋太郎時忠（そめやたろうときただ）の子。半原の染矢家はこの染屋太郎時忠の子孫であるといわれている。

〈註2〉めでたいしるし

〈註3〉今大山不動院清滝寺（こんたいさんふどういんせいりょうじ）真言宗。開山は良弁。

明治2年廃寺

〈参考資料〉前掲書 〈取材協力〉伊従正司さん